

## 小竹だより

練馬区立小竹小学校 校長 泉崎 春海



平成26年2月号

No. 463

## 校内書き初め展を通して

副校長 井上 淳

1月の中旬、すべての学級で席書会が行われました。いつもは、子供たちの笑い声があふれている教室ですが、緊張感が張り詰めた雰囲気の中、子供たちが集中して書き初めに取り組む姿が見られました。また、体育館で実施した学年もありました。寒さも手伝い、よりシーンとした静寂間の中での席書会でした。

さて、1月20日から校内書き初め展が行われています。子供たちがそれまでの練習の成果を発揮した力作が展示されています。私は、校内をまわって、すべての子供たちの作品に目を通していきます。1本1本の「線」や「はらい」

などを観ていると、「勇気をもって、この線を書いたな」「このときは迷いながら書いたのだろうか」など、一人一人のそのときの心情が作品から読み取れるような気がします。

私自身は、書道を学んだ経験があります。小学校時代から教師になった当初まで、自分の作品が入選したこともありましたが、今、自分が過去の作品を鑑賞すると、文字の形ばかりに気がとらわれ、「迷っている」「毛筆ではなく硬筆のようだ」などと感じるレベルだと思います。

私が30歳の頃に、伸び伸びとした文字を書く先輩教師に出会いました。すばらしい文字なので、思わず「先生は書道、何段ですか」と尋ねると、「段なんか持っていないわ。そもそも習い事で書道をした経験すらないわ」と言われました。そのときの驚きは今でもよく覚えています。あまりの衝撃に、それまで窮屈に文字を書いていた私は、自分の殻を破り、筆にたっぷり墨汁をつけて伸び伸びと文字を書くことができるようになりました。そして、心から書道を愉しめるようになりました。

いい結果を出すことは、とても重要なことです。しかし、結果ばかりにとらわれてしまうと、一番大切である物事の本質を見失うことがあるのを書道を通じて学びました。これは、書道だけではなく、何事にも当てはまるのではないかと思います。

書き初め展をご覧になる際、子供たちの作品一つ一つに、そしてその文字に込められた思いに着目してご鑑賞ください。作品が並んでいると、ついつい作品同士を見比べてしまいがちです。しかし、一人一人の作品を集中しながら観ると、とても味わいのあることに気付かれると思います。「この線を書くとき、思い切って書いたのだろうか」など、一文字一文字まで細かくご鑑賞すると、書き初め展を別の視点でご覧頂けることになると思います。

2月8日（土）の学校公開日まで作品が掲示されています。ご来校の際は、是非ご鑑賞ください。

